

八王子市立中学校部活動検討会議 会議録

会 議 名	令和5年度第1回八王子市立中学校部活動検討会議		
日 時	令和5年5月16日（火） 午後6時30分～午後8時30分		
場 所	八王子市教育センター 第3研修室		
出 席 者	<p>NPO 法人八王子市スポーツ協会 会長 澤本 則男 八王子文化連盟 理事長 土井 俊彦 中学校PTA 連合会 会長 守屋 香里 大学コンソーシアム八王子 主査 鎌田 正純 スポーツ推進委員協議会 会長 青木 純 中学校校長会（体育） 校長 山川 毅 中学校校長会（文化） 校長 藤塚 康子 小学校校長会 校長 平田 英一郎</p> <p>生涯学習スポーツ部長 平塚 裕之 スポーツ担当部長 志萱 龍一郎 学校教育部長 今川 邦洋 指導担当部長 西山 豪一 生涯学習政策課長 鶴田 徳昭 スポーツ振興課長 谷 靖之 放課後児童支援課長 倉田 直子 統括指導主事 鴨狩 淳一 地域教育推進課長 高橋 健司 学校施設課長 武井 博英 学務課長 中野 みどり 教職員課長 櫻田 俊二</p>		
欠 席 者	八王子市レクリエーション協会 会長 塩澤 迪夫		
議 題	<p>(1) 検討会の目的と位置づけ (2) 八王子市立中学校の部活動の現状 (3) 部活動地域移行に関する国の動き (4) これまでの八王子市の取り組み (5) 今後の検討会の進め方 (6) 意見交換</p>		
会議の公開・ 非公開の別	公開	傍聴者の数	0
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度（2023年度）第1回八王子市立中学校部活動検討会議 次第 ・ 八王子市立中学校部活動検討会議 出席者名簿 ・ 八王子市立中学校部活動検討会議 開催要綱 ・ 第1回 八王子市立中学校部活動検討会 資料 		

会 議 内 容

1. 開会

平塚部長：それでは、定刻となりましたので、只今から、令和5年度、第1回八王子市立中学校部活動検討会議を開催いたします。

本会議は八王子市立中学校部活動検討会議開催要綱に基づき開催しておりますが、この運営にあたっては、「八王子市附属機関及び懇談会等の指針」に沿って行っており、会議は原則公開となっております。

また、会議の終了後は会議録を作成し、市のHPに掲載することとなっているため、記録用に音声録音をしておりますことをご承知おきください。

発言前にはお名前をお願いします。

続きまして、安間教育長からご挨拶をさせていただきます。

2. 教育長挨拶

八王子市教育委員会教育長の安間英潮でございます。本日は第一回の八王子市立中学校部活動検討会議にご参加いただきまして誠にありがとうございます。さて、部活動が大きく変わろうとしています。国が、急速に進む少子化、学校の働き方改革等を踏まえて、活動の段階的な地域移行を打ち出しました。この方針というのは、これまで子どもにとって大切な経験の機会として、長きにわたって学校が担ってきた部活動を再構築する大転換であります。ただ、国は予算の大幅な縮小などの現実的な問題に直面をしております、改革集中期間と呼んでいたものが改革推進期間に変わったり、また、地域移行と言っていたものが地域連携と呼ぶようになってきたり、非常に情勢は流動的であります。こうした国の方向性を踏まえ、他の自治体では様子を見るような状況もございますが、八王子市はコロナ禍の時も子どもたちの学びを止めないということを主眼に置いてずっとやってきました。部活動がもしそのような様子を見ることによって停滞してしまったとするなら、子どもたちにとって一生に一度の様々な活動をする機会が失われてしまうのではないかとこの現状認識をしております。今回の国が行っている地域移行を、八王子市では部活動改革と呼んでいます。何度も申し上げますが、一度しかない子どもの体験機会を持続可能なものとするのと同時に、子どもたちにとっての選択肢を広げ、これを保証してあげるというのが、我々にとっての主眼であります。そして、これまで我々が経験してきた部活動の概念大幅に変えて、子どもたちが生涯にわたって地域で活動していくためのスタートになるようなものがこの部活動になれば良いと考えているところです。したがって、これを経験した子どもたちが今度は指導者になって、次の世代の子どもたちを指導してもらい、そんな循環ができればと考えているわけです。こうしたことから、本市でのこの部活動改革は、まず学校で徹底的な集中化、精選をし、指導できる教員の有無にかかわらず、それを持続的に指導できるような体制を各学校で作ってもらい。言い換えれば、これまでのように子どもたちの願い、保護者の

願いがあると、なんでも店開きをしていた学校ではなくて、「うちの学校はこれでいきます」というふうに絞り込む。その代わり、そこは徹底的に継続するという体制です。同時に、各学校だけではチーム編成ができないような場合は、広域部活動と複数の学校が共同で行う地域部活動、そういったものを拠点ごとに作って行って、子どもたちの選択の機会をつくれるような形で学校の部活動体制を入れ替えていくという決意であります。それと同時に、一番大事なことは部活動以外の選択肢で、八王子市には文化連盟もスポーツ協会もあり、さまざまな活動を地域の方々がやっていたりしゃる。ぜひ、その中で中学生、小学校高学年を入れていただけたところには積極的に入れていただいて、そしてその子どもたちがそのまま地域活動の一員として活動してくれる。小学校五年生からぜひ仲間に入れてあげていただきたい。このようなかたちで八王子の子どもたちのため、子どもたちが有意義な活動ができるために、改革をしていきたい。それが今回の趣旨であります。八王子の子どもたちというのは、今は子どもですけれども、八王子の市民です。いずれは我々の地域活動の担い手となります。ぜひそういう思いを念頭に、皆さま方には御検討いただきたい。今回お考えいただくのは、理念的にこうあるべきという上からの改革では全くありません。むしろ、できることを確認しながら、子どもたちの選択肢を増やしていただくようなかたちで検討会の議論が進んでいただければ、ありがたいと思います。何度も言いますが、子どもたちが八王子の宝です。そして、これからの八王子で活躍していく人たちです。そのために何ができるのかということ、今やらなければならないという強い決意を持って、教育委員会、取り組んでまいりたいと思いますので、ぜひ皆様が活発なご議論をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

3. 会議出席者紹介

4. 会議

- (1) 検討会の目的と位置づけ
- (2) 八王子市立中学校の部活動の現状
- (3) 部活動地域移行に関する国の動き
- (4) これまでの八王子市の取り組み
- (5) 今後の検討会の進め方

※ 配布資料「第1回 八王子市立中学校部活動検討会 資料」に基づき各項目を説明。

(6) 意見交換

平塚部長：八王子市の部活の現状、また国の動きにあわせて八王子市の今後の基本的な考え方、そしてこの会議の検討の方向性を確認したところでござ

います。ここからは皆様との意見交換をさせていただきたいと思います。資料最終ページに何点か意見交換のポイントを示させていただいておりますが、初回ですので、この4点以外でも忌憚ないご意見をいただければと思います。これから回を重ねていきますが、皆様のご意見の中に八王子ならではの日常、特性、そういったことの手掛りがあると思っております。今後の検討会の論点にさせていただきたいと思いますので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。

参加者：基本的なことで申し訳ないですが、先ほどから説明に出てきます『部活動の指導員』について、指導員または補助員をやるにあたって、資格等の要件は定まっているのでしょうか。

中野課長：今まで部活動にボランティアとして参加していただいたりしている地域の方々にお声掛けをし、登録していただいたりしています。特に指導者として出していただく書類はありません。学校と指導員になられる方とのやり取りの中でお願ひをさせていただいております、学校から上がってき方々を任用させていただいております。

参加者：ありがとうございます。

鴨狩統括：補足になりますが、年1回の部活動指導員研修を受けていただかないと(部活動指導員等として)任用ができないようになっていきます。体罰の問題やいじめの問題など、様々な分野について1時間研修を受けていただいて、その後、校長先生と面談をしていただきます。ただ、今現在、部活動指導員を探すのはかなり大変です。色々な地域でこういった部活動指導員が必要になってきています。

参加者：ありがとうございます。ちなみに、部活動指導補助員の中に大学生はいますでしょうか。何かデータとお持ちでしたら、ご教示願えればと思います。

鴨狩統括：教員を志望している方ですとかが何人か補助員として入っていただいていると聞いています。

参加者：データとしてはお持ちではないでしょうか。

鴨狩統括：学務課のほうで登録されている方はデータとしてありますが、今この場でどこの大学で何人がという具体的なことはお答えしかねます。

参加者：わかりました。ありがとうございます。

参加者：中体連の会長をやっている関係で部活指導補助員の登録者のコピーが回ってきますが、去年今年見ていて比較的大学生は少ないです。成人の方のほうが圧倒的に多く、高齢者の方もいらっしゃいます。少し別の話で、今日校長会で確認したのですが、先ほど鴨狩統括の方から部活動指導員と部活動指導補助員の2種類があり、いわゆる部活動指導員というのは監督の権限を持って引率もできるとの説明がありました。昨年度までは、部活動指導補助員は、コーチの資格があっても監督権はありませんでしたが、東京都中体連

は今年から監督権を許可しています。ただし、20歳未満は不可。成人している場合は、学校長が人格等をしっかり判断した上で、部活動指導補助員にも監督権を与えるというふうに変わりました。どうなっていくかはわかりませんが、全て任せられるようになるかどうかは別として、一応その点は少し緩くなったようです。

鴨狩統括：あと、もうひとつ申し上げておきたいのが、部活動指導員はこれまでは一つの競技で5年縛りでした。例えば、ある学校のバスケット部で部活動指導員として5年間は運用できるが、5年過ぎると離さなければいけないというのがありました。しかし、部活動の地域移行に関連して取り組んでいくというところであれば、延長ができるというように制度が変わっていくようです。

参加者：八王子市の小学校教育研究会で体育の顧問、それから東京都の小学校体育連盟のサッカーの専門部長を9年間やってきました。そんな経験から、中学校の部活動には大変興味をもっています。八王子市の基本的な考え方というところで、一番目の『子どもの活動の機会を継続』というのはずごく大事かと思います。サッカーで言うと、中体連での活動の場面はずごく少なく、都大会と新人戦の大きく二つです。クラブユースですと年間を通じたリーグ戦があつて、大会があります。中体連なのかクラブユースなのかというところもあるかと思いますが、そもそもやはり活動の機会が大事であると思っています。二番目の『子どもの充実した放課後・休日の過ごし方』のところで、夢中になれるものはやはり絶対必要であると思います。文化芸術であっても、体育・スポーツであっても、何か夢中になれるものが一つあるということは、人生の大きな加点になると思います。そこを確保するには予算が必要なのではないかと思います、その点がどうなのか気になるところです。それから、三番目の『生涯にわたって、スポーツ文化に親しむ』というところで、総合型地域スポーツクラブを青梅市で設立するとき、副委員長をやって関わってきました。ただ、「よし、じゃあここでやろう」というときに3.11の震災が起きてしまい、そこから青梅市の方もそれどころではなくなってしまい、断ち切れてしまいました。別の団体が青梅市の総合型地域スポーツクラブを、カヌーを中心に立ち上げました。総合型地域スポーツクラブというと、八王子ではアローレ八王子という団体がやっていますが、そのような地域密着型で活動しているところとも連携していくことが必要なのではないかと思います。基本的な考え方に関して、私見を述べさせていただきました。

平塚部長：ありがとうございました。学校側のご意見をいただいたところですが、地域の方の立場でご意見、ご指摘事項などございますでしょうか。

参加者：先ほどから話題になっている部活動指導員や補助員、そういう人でないと指導ができないということでしょうか。一般の社会人がたくさんいますが、制度を知らない人が多いです。予算の関係があり、たくさん入れられな

いだろうとは思いますが、指導できる人はたくさんいます。ですが、制度そのものがわからないと広げようがありません。今ここで話を聞いて、部活動指導員や補助員がいるということですが、資格要件がどうなっているのかわからない。今聞いていると、学校単位で指導員等を認可するということでしょうか。

中野課長：校長先生から「この方を指導員にしたい」という要望があり、その方に対して学務課で謝礼等の支払いをさせてもらっています。

参加者：スポーツ協会等だと日本スポーツ協会の公認指導員等、そういう制度になっているので、そういうのがないとできないと思う人もいます。具体的に言わないと指導員のなり手がいないのではないのでしょうか。

参加者：だいたい中学校で部活指導したいという人は自分から言ってきて、審判の資格を持っていたりすることが多いのではないかと思います。

参加者：私も空手で指導資格をもっていますが、都教連の方からは「資格を持っている者でないとダメです」と言われます。しかし、地元（八王子市）ではそういう制度ではなくて、学校長の認可でできるということなのですね。

鴨狩統括：そうです。

参加者：指導の資格にもランキングがあって、いろいろと勉強しなくてはいけないので、持っている人と持っていない人がいますが、幅広くやるには、あまり堅苦しくやっていると、人がたくさん集まらず、協議が進まないのではないのでしょうか。

鴨狩統括：部活動指導員で、公認コーチの資格等を私自身いろいろ取りましたが、お金が莫大に掛かります。何十万単位で自腹を切って取りに行き指導します。サッカーの審判も、試験はありますし、時間がかかるし、登録料もあります。また、何回も通いで研修を受けたりしないと失効してしまいます。そういう資格を持った方を部活動指導にしなければいけないとなると、ほぼ集まらないと思います。今でも（人材の）取り合いで、バスケットボールは本当に人材がいません。いろいろな人材を見ても誰も来ず、自分（学校主体で）で人材を探していかなければならないので、本当に学校は大変です。かといって保護者がやることも仕事で難しく、やはりそうなる先生がやっていかないといけないとなります。そういった悪循環になってしまっています。部活動の枠で考えるとそうですが、将来のスポーツや将来の文化活動ということで、その枠を広げていけば地域にたくさん指導する方がたくさんいらっしゃると思うので、そういったかたちで先ほど教育長が述べたように、いろいろな選択肢があってもいいのではないかと思います。

参加者：文書で依頼を出していただければ、団体としてそういう人たちを募集することはできます。しかし、集まりすぎても困るだし、予算の関係もあるでしょう。受け入れ体制の方はどのくらいできるかによって、そのバランスもあるのではないのでしょうか。また、スポーツをやるにはまず会場と指導

者、この2つがないと絶対できないので、その点を団体としては心配しています。

参加者：スポーツ部の話を中心となっていますので、文化部の話もさせていただこうかと思えます。八王子市の中学校では毎年11月に教育委員会から補助していただいて、中学校の芸能祭というのを実施しています。音楽部門にだいたい20以上の団体が、吹奏楽、合唱、和太鼓なども入ってJ:COMホールでやっています。私が主に関わっているのは演劇で、都の演劇の会長と都中文連をやっていますが、私自身演劇は専門ではないです。私自身は運動しかしたことがないのに、中学校の教員になって演劇を始めて35年になりますが、大会で代表を出すようなこともあって、毎年南大沢文化会館で演劇、ダンスが7団体出場しています。非常に子どもたちは頑張っていて、保護者も喜んでくれているのですが、演劇は人数が少なくなってきました。演劇はやはり集団なので、広域部活のようにしないと難しいだろうと思います。吹奏楽についても仕上げる時だけ集まるというわけにはいきません。普段からの練習もあるので、文化部の方が人数が少なくなってくると、より難しいところがあると感じています。また、指導者についても、吹奏楽部の顧問をしたこともあります。保護者が子どもたちのために出せる範囲の中で一人につき2000円ずつぐらい会費を集めてコーチの人に来てもらったりするような取り組みをしていて、本当に涙ぐましい努力をして、子どもたちの技術を保証しようとしています。演技の方についてもまた難しく、演劇はプロフェッショナルの人がつかないと舞台幕が開きません。照明技術等についてアドバイスをくださる方が必要です。この芸能祭には毎回、若手で劇団をやっていて手弁当で来てくれる方がリハーサルからずっと丸々2日間ついてくれてなんとか回っているという状況です。普段のお稽古の指導だけではなくて、そういったステージの運営というところにも力を貸してもらいたいところです。そういう場合に来てくれる方はどんな立場かという、学校の部活指導補助員というボランティアですが、ボランティアの枠を越えてやってくれているというような状況があります。先ほどあったように、力を貸したいけどよく分からない、どう関わっていいかわからないという声とのマッチングの難しさや、マッチングしたはいいけれども部活動としての保護者の経済的な負担なども関わってくると思えます。これが学校会場ではなくて、ホールでやるとなると、ホールを借りるお金なども負担しなければならないとなったときに、保護者が果たして納得していただけるような地域移行ができるだろうかというところを心配しています。

平塚部長：文化部の状況のご説明ありがとうございました。その前に先ほどのご意見のところ、現状、部活動指導員また部活動指導補助員に関して、まだ知らない市民も多いのではないか、スポーツ協会に現に活躍している補助員の方には、そういう意見もあるのではないかという趣旨のご発言だったと

と思いますが、周知の関係で市側から何かご意見等ありますでしょうか。

中野課長：私どもの方で指導員の任用や、学校で指導補助員を採用等させていただいたりしておりますので、ホームページ等でそういった情報を載せているかどうか、今手元に資料がないのですが、もし今まで行っていないのであれば、それらもホームページ等でお知らせしていけると考えております。各学校の指導員や指導補助員の状況については、全ての学校分を把握はできていない部分があります。指導員として、地域で関わりたいという方がいらっしやるのであれば、直接学教課の方にお話しただいて、例えば「どこの学校でこういう部活動があります」という情報提供などができる場合もあると思います。指導員や指導補助員として、活躍されている方々がいるという周知は行っていきたいと考えています。

参加者：以前、小学校の放課後教室から指導を頼まれて受けたのですが、やはり役所から会に出ていただいて、説明をよくしていただく（のがよいのではないのでしょうか）。ホームページもいいですが、積極的に役所の方も出てきていただいて、会合等で顔と顔合わせて心でお願いをしていただかないと、なかなか通じないのではないのでしょうか。「機械でやっているからいい」という問題ではなくて、人間が人間を教えることをするわけですから、そちらのお願いする方もこちらの方に来て、それらの活動の協力依頼をして頂きたいです。そうしたほうが伝わるのではないかと思います。

中野課長：ありがとうございます。

志萱部長：私どもがちゃんと橋渡しをしてなかったと思いますので、今後、学校教育部のほうと連携をして、スポーツ協会のほうに橋渡しをして、こちらのニーズをお伝えする、または制度のほうをお伝えしてというところを臨機応変にやらせていただければと思います。

鶴田課長：今話題となった事項というのは、説明の中にもありましたが、本来八王子市は生涯学習活動が活発な街ですが、今まで指導員という情報がなかった、あるいは競技経験をもった指導意欲のある方を知らなかったという、お互いに見えない状態でした。今回の部活動改革を通じて、こういった部分を見えるようにして、指導力のある方が各学校にいる子どもたちに指導しに行く、あるいは今まで見えていなかった地域の活動に子どもたちが「うちの学校にはない種目がこんな近くにあったんだ、やってみたいな」と参加しやすい仕組みを進めていくというのも、検討会議の意義であると考えております。回を重ねるごとにそういった具体的な話が出てくるかと思えます。初回に良いご意見いただいたと思います。ありがとうございます。

参加者：余計なことかもしれませんが、よく見えないんです。「八王子には街の中に拠点であるとか、具体的にこういうようなプランがあります。それに、対して皆さんこういうふうに協力してくれますか」と言っていた方が協力しやすいのではないですか。漠然と「こういう構想があります。皆さんご

協力願いたい」と言われても、八王子に拠点1か所というわけにいかない。こんな風な地域でこんな風にやって行きます等を同時に行わないといけないのではないのでしょうか。さきほど申し上げたように、指導場所がまず問題。行くとすれば、どういう場所に行けばいいのかということが分からないと行けません。具体例な話が出てくれば「俺が近いからいけるな」とか、実際に出てくるのではないのでしょうか。この話はいっぺんに決められる話ではないので、全体的に底上げする為の準備だと思います。バランスよく場所の作り方、子どもの集め方を私たちに教えていただいて、私たちもそれに協力して、その場所なるべく指導員になっていただくように働きかけるようにはします。

平塚部長：地域側からの貴重なご意見ということで参考にさせていただきま
す。地域の文化の関係ではいかがでしょうか。

参加者：基本的な考えは賛同します。当団体には学芸部門、公演部門、研究部門とありまして、学芸については御茶や囲碁などの団体が入っています。公演だと日本舞踊等、舞台で行うものです。生徒たちがやりたいこと、ニーズが出てこないと言えませんが、生徒のニーズを掘り下げて調べていただければ、ご協力できるのではないかと考えています。個人的には御茶の先生をやっていますが、幼稚園、保育園の子どもといえば、御茶はペットボトルです。文化がなくなっており、危惧しています。御茶、日本舞踊、三味線、尺八等、伝統文化を担う子どもたちがいなくなってきたのが現状です。今、学校とクラブ、塾で忙しい子が多く、それプラス“習う”ということがなかなかできなくなってきたというのが、文化的な活動の現状です。昔は、ピアノ等があったりしましたが、なかなかそういうところまで届かない時代になってきたのではないかと考えております。できれば、「何々をしたいから」という具体的なものをだしていただけると、対応を検討できるのではないかと考えました。

平塚部長：ありがとうございます。21ページの八王子市の基本的な考え方の③3で、『子どもたちが生涯ににわたりスポーツ・文化芸術に親しむ』という考え方と合ったご意見と受け止めます。

参加者：PTAの方では毎年、予算要望ということで、市の教育委員会に出させて
いただいているのですが、その中でも毎回、部活動指導補助とか部活指導員の方をぜひ増やしていただきたいということを、子どもたちに対していいのと先生たちの働き方改革ということで出させていただいています。毎年、本当に少しずつですが、増員をして頂いてはいますが、やはり予算の関係で多く増やせていけないというのが多分現実ではないかと思っています。先ほどのご説明の中でも都や国の方向性や補助対象などが決まってないということで、市が勝手にどんどん予算を上げて作っていくことが難しい中で、補助員の取り組みに突っ走ってしまっても難しいのではないかと考えたのが一つです。やはり今現在は学校側がお願いした方となっていますが、そうすると、学校側にとっても負担になるので、例えば登録制であったり、市のほうでまとめた

りしていただけると、多分学校側としてはありがたいのではないかと思います。もう一つは、単純な質問ですが、6月からニュータウンの方で拠点校制のものが始まるということで先ほどご説明がありました。実際のところ、例えば、テニス部が2校合わさって活動を行うのは、コート数や人数等を考えると、どうなのでしょう。例えば、城山中学校だと、コートは1コートだけ。自分たちでグラウンドを整備して3面ぐらいにしても、みんながみんな使えるわけではない状況です。1校だけでもそのような状況なのに、合同にしてしまった場合に特に問題はないのでしょうか。通常の練習と違うものが見ることができ、いいところもあるとは思いますが、この辺りの学校は人数のいる学校という認識ですが、これらの点について問題はないのでしょうか。わかる範囲で教えていただければと思います。

鴨狩統括：今回モデル校を作る際は、部活動に加入している子どもたちの数を見て、どの部活が一緒にやれば、ある程度のニーズに合うかを考えてマッチングして来ました。活動する会場は3校の校長先生方とも話をしています。将来的には部活動は縮小していくので、校庭等を自作でテニスコートのようにしてやる等、本格的にというよりは初心者としてという形でやっていこうということで校長先生とは話をしています。あとは部活動指導員をどんどん増やすという考えはあまりありません。税金を今後投入していくというと、持続可能ではないです。つくばでは基本的に保護者負担です。これまではそれを学校の先生がほぼ無償で担ってきたところも今後議論になってくるのだらうと思います。そういった点も、今後国の方でどういう財源を考えているのかはわかりませんので軽々には言えないですが、今の段階では部活動指導員が先生方の代わりになって指導していただいて、子どもたちの活動の機会を確保するというかたちです。八王子は小さい市ではないので、マッチングをしていくのは非常に難しいですし、地域によっては中学校が少し遠くにあって、中学校同士で組めないところもたくさんあるので、各地域に応じた対応を考えていかなければいけません。市に3つしか中学校がないのであればすぐ終わってしまいますが、市の大きさの問題もあるので、基本的にこのモデル校は近隣で歩いて来られる距離、そして部活動の人数をある程度ニーズのあるものをやっているところになります。

参加者：今のつくば市の事例等でも地域に移行している例をご提示いただいたかと思うのですが、個人的には中学校の部活動というと教育の一環としてのイメージが非常に強く、そこに生徒の成長等の部分が何かしらの形で組み込まれているのかなというような印象を持っている部分があります。今回21ページにあります八王子市の基本的な考え方のところと言うと、活動の機会の継続という意味では、ある意味そういう部分も入っているのだらうと思いますが、放課後・休日の過ごし方、スポーツ文化に親しむというようなところでは体制的な部分を中心であると感じます。教育との関係というところほど

のように考えていけばいいのかを教えていただけると助かります。

鴨狩統括：学校で子どもすべてを教育するわけではないと思います。スポーツをするのは学校でなくても良いし、文化活動するのも学校ではなくてもいいのではないかと思います。地域にたくさん大人の方がいらっしゃって、様々な年齢層の方がいらっしゃって、その中で活動することによって、地域の中で地域の方に育ててもらえるというところがあると思います。これからの議論は“学校”で考えるのではないものになってきます。生涯にわたって、例えば80歳でもサッカーのリーグができましたが、そういった方向に舵を切っていくっていう大転換なのだと思います。

参加者：私の立場で言うと、学生と接していたりしますと、学生時代に力を入れたこと、高校から大学行くとき、中学から高校行くときなども、「学校で力を入れたこと何ですか」と聞くと、「部活」というのが真っ先に出てくるイメージなので、どうしても教育と一体化しているイメージを持ちがちなのですが、その辺はある意味切り離して、「教育というのは地域でやっていくものだ」という考え方でよろしいのでしょうか。

平塚部長：一般的に教育というと学校教育というイメージがありますが、社会教育、家庭教育、そして学校教育というものが教育になります。最近では「社会教育」という言葉よりも「生涯学習」という言葉が使われることが多いのかなと思います。家庭教育の中で実現できるものもあると思いますが、今回はその家庭でというのは議論から外れてしまうかもしれないですが、家庭ないし学校、地域の中でどうやって子どもたちが、スポーツ、文化活動を送れるかという整理になるかと思います。

参加者：21 ページの八王子市の基本的な考え方の第2項、『子どもの充実した放課後・休日の過ごし方を提案』というところで、冒頭に『地域には、スポーツ、文化芸術、レクリエーション、ボランティアなどの多様な活動機会があり』というところがあります。私どもが今推進している八王子市全体のスポーツ推進の中には、総合型地域スポーツクラブというのが各地区ございます。私の記憶ですと八王子の場合は総合型地域スポーツクラブが18団体かと思うのですが、これは東京都の中で一番多い数です。八王子には現状、それだけの地域総合型スポーツクラブがありますが、学校の部活との連携はほとんど聞くことがありません。いくつかの総合型地域スポーツクラブには子どもを対象とした競技がありまして、そこでは子どもたちも一緒に取り組んでおりますが、総合型になる以前の体力づくり推進協議会の場合は、対象が社会人で子どもではないです。ところが、総合型地域スポーツクラブになってからは子どもであっても、社会人であってもという枠が広がり、本来であれば、それを機に地域としての取り組みとして連携が取れていってしかりだったかと思うのですが、現状、皆さん体力づくりの延長のままの組織移行でやっておりますので、あまり直接子どもを含めた地域への目というのが向いていなか

ったのが一つの反省点であると思います。今までの取り組みをここで拝見させていただくと、部活動指導員の方、あるいは部活動指導補助員の方は、どのようにして決められたのかと思う。学校長とのつながりある、いわば属人的な繋がりなのかなというところを考えると、もう少し地域全体で学校部活側も総合型地域スポーツクラブ活動、それから地域側も部活に対しての目を向けるという総合的な部分は、まさにこの連携につながっていくことになると感じました。指導員を増やすということは量産面からも難しいというような話もありましたが、方向性としてはどうなるのでしょうか。

鶴田課長：学校の部活動につきましても、同じ21ページにありました通り、さまざまな工夫をしつつ、種目などの絞り込みなどが必要になってくるかと思いますが、この場面でやはり地域の方が必要だと考えております。先ほど指導補助員の話が出ましたけども、枠としては学校部活動の中のお話になってしまいます。部活動の加入率は8割超えというデータもありましたが、中学一年生から三年生の頃に部活という従来の形態でいわば囲い込んでいたような状態もありました。それについて、部活動も変わっていかなければいけないし、地域の活動についても子どもたちが参入することによって活性化していくような二本のレールであるという考え方を念頭ご提示させていただいたところになります。

平塚部長：決して学校部活動の充実というベクトルではないということです。今日初めて見る資料とか考え方ということも多いので、まとまったご意見という段階でなくても結構だと思いましたが、それぞれの立場から意見をいただいたような気がします。それぞれの立場、まだまだご意見あると思いますので、まずは広く様々な立場でのご意見を聞きながら、少しずつ方向性をまとめていければと考えているところです。本日も発言足りない参加者の方いらっしゃいましたら改めてご発言をお願いしたいと思います。

西山部長：本日はありがとうございます。説明の中にもありましたが、この会をこれから年5回進めていくという中で、ここにいらっしゃる方々のご意見というのは非常に我々の参考にもなっていますし、今後さらに考えていく上での材料になるというふうに思っていますが、例えば「こういう方々だからこそ、こういう関係の人たちもこの会議いるといいのではないか」という提案等はございますでしょうか。ここにいる方々だけで進めていくことも、もちろんプラスの方向になると思うのですが、今後あと何回も続く中で様々な立場の方のご意見を受けながら、冒頭、教育長から話があった「子どもたちが将来にわたってさまざまな経験ができる機会」をどう増やしていくかというところを一生懸命考えていきたいと思っておりますので、皆様のご協力とプラスして様々な団体、またそういう方々のご意見なども伺えると、ありがたいなと思ひまして、最後こういうお話をしました。

今川部長：本日はどうもありがとうございました。今色々と子どもの環境で

あつたり、行政サービス全体を見ても、地域の資源、人材、そういったものをどのように連携しながら活用していけるのかというのは本当に大きな課題になってきているのだと思います。冒頭でも「情報が無い」というご指摘をいただき、もう少ししっかりと向き合った対応をしていくことで活用していける支援というのは、地域全体の中に埋もれているのだらうと我々も思っているところです。そういった意味では今回、子どもたちの活動の場をどのように確保していくのかというところは、やはり地域の皆さん、また学校現場の皆さんといろいろ考えながら、どのように仕組みをつくっていくのかを丁寧に議論していかなければいけないと改めて思いました。これから具体的に学校の部活動の維持であつたり、地域とどう連携しながら、子どもたちの休日の活動の場を確保していくのかというところについては考えていかなければいけなりません。そういう段階にきていると思っておりますので、今日様々な情報の共有もさせていただきましたので、具体的な仕組みの部分について、様々な視点からご意見いただきながら、この地域移行という部分について、具体的な仕組みを作っていけたらと思っておりますので、引き続き様々なご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

志萱部長：今日は様々なご意見ありがとうございました。先ほど青木会長の方からお話がありましたけれども、もともと国が考えたときに、スポーツに関しては総合型地域スポーツが受け皿としてふさわしいのではないかという話もあつたのですが、市内に19あるクラブでもそれぞれ地域によって形態も異なり、受け皿となり得るところもあれば、そうでないところもあります。地域性によっても、資源が使える・使えない等色々あると思っておりますので、そういった実情を踏まえた上で八王子としてどうやっていけば持続して子どもたちに体験の場を提供できるかというところをこれから皆さんにご意見をいただいでいくわけですが、全5回となっていますが、当然、今日のようなことを5回行っただけでは意見は出し尽くせないでしょうし、情報も共有しきれないと思っておりますので、この回と回の間でもご不明な点、あるいはご提案等あれば、連絡事務局または関連所管の方にご意見ご質問お寄せいただければと思っております。これから皆様のお力を借りながら良い形が出来ていければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

平塚部長：会議時間も長時間に渡ったところの中で、もしご発言足りない方であれば、もう一度お伺いしたいと思いますし、また、何かこの後、事務局に言い忘れたこと等をお声掛けしていただいてもよろしいかと思います。冒頭、教育長から部活動改革という言い方でご挨拶させていただいたところです。八王子には本当に地域性が豊かでありますので、これから中学生を送る人たちが大人になって振り返りをした時に、部活だけではなくて、地域とのつながりのなかで充実した時間を過ごしたかという振り返りが出来れば、それが一番あるべき姿なのかなと思っております。そういうところの中で、子どもの

ためにどのように大人がこれから環境を整えるかが、部活動改革の本質的な部分です。もちろんデメリットや課題というところも指摘をいただきながら、子どもたちの成長にどのように関係をつくっていけるかというところで、今後も引き続き活発なご意見いただければなと思っております。

事務局：第2回部活検討会議につきましては、7月の中旬から下旬を予定しております。詳細につきましては改めてご連絡しますので、よろしく願いたします。以上です。

5. 閉会

事務局：第一回目の参加ありがとうございます。これにて閉会をさせていただきましたと思います。どうもありがとうございました。